

贈る言葉

校長 榮 秀之

日ごとに暖かさを感じられるようになりました。本年度はコロナ禍の厳しい状況下でしたが、子どもたちは心も体も大きく成長しました。保護者、PTA、おやじの会、地域の皆様には多大なるご支援、ご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。さて、いよいよ6年生の門出をお祝いする時期を迎えました。これまで卒業アルバムには、私が読んだ本から言葉を引用してメッセージを贈ってきました。これは折本小のすべての子どもたちにも伝えたいことなので、ここに6年分を紹介します。

『The Important Book』 (大切なこと)

マーガレット・ワイズブラウン 作

ひなぎくは 白い、雨は うるおす…と、一つ一つのものについて、その大切なことは何か、作者が感じるままに語りかけていきます。そして、最後に“あなたにとって 大切なものは…” それは、“you are you”

(あなたが あなたで あることです。)と、素敵なメッセージが贈られます。これからの人生の中で道に迷ったり道を見失いそうになったりしたときに、自分自身に“you are you”と声をかけてみてください。

『3人の旅人たち』

ジョン・エイキン 作

何もない「さばく駅」で働く3人の駅員がそれぞれ旅に出て素敵なお土産を持ち帰ります。一人は大都会へ、一人は海へ、一人は砂漠を進んでオアシスを見付けます。

この物語からは、3人の友情、それぞれの個性の豊かさ、チャレンジ精神、未知へのあこがれ、身近にある幸せ…など生きることの意味や価値を見出すことができます。子どもたちには、人生という旅の中での新発見や再発見を大いに楽しんでほしいです。

『Rudolph the Red-Nosed Reindeer』

(赤鼻のトナカイ) ロバート・メイ 作

サンタを乗せたソリを引くトナカイにはそれぞれ名前がありました。9頭目のトナカイ「ルドルフ」は、赤い鼻がみんなと違うことでからかわれていましたが、サンタに「霧の中を走るのに光る赤い鼻が必要なんだ」と言われて自信を取り戻し、トナカイの先頭を走るようになったという話です。人にもそれぞれ個性があって違いもあります。互いに認め合うこと、人にはない自分のよさを見付けようとするを大切にしてほしいです。

『グッドラック』

アレックス・ロビラ 作

ノットとシドという二人の騎士が、幸運のクローバーを探すために「魅惑の森」に旅立ちます。二人は森の中で、それぞれ同じ場面に遭遇し同じ人物に出会いますが、その時の受け止め方や考え方の違いから、運命が大きく変わってしまいます。物語の最後に出てくる言葉がとても印象的です。

『運は、呼び込むことも引き留めることもできない。幸運は、自らの手で作り出せば、永遠に尽きることはない。』

『たくさんのドア』

アリスン・マギー 作

『今日も明日も、あなたはたくさんのドアを開けていく。その向こうにたくさんの新しいことが待っている。あなたは、どんな人になり、いったいどこへ行くのだろう。どうやって答えを見つけていくのだろう。』と、あなたはこれからも人生の中で、いくつものドアを開けて進んでいくと教えます。そして、どんな困難な時でもあなたはドアを開けていく力があるのだと励ましてくれる絵本です。

『ルピナスさん』

バーバラ・クーニー 作

ルピナスさんが子どものころ、「大きくなったら遠い国に行く。」「おばあさんになったら海のそばに住む。」「世の中をもっと美しくするために、何かをする。」と、おじいさんと三つの約束をします。そして、おばあさんになったルピナスさんは、住んでいる村をルピナスの花で埋め尽くして3つ目の約束を果たします。子どもたちにも、いずれ「世の中をもっと〇〇する」の〇〇を見付けて実現してほしいです。